

2023年度環境経営活動レポート

活動期間 2023年4月～2024年3月

目次

1. 組織の概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
5. 環境経営活動計画とその評価
6. 環境経営目標の実績
7. 活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無
9. 代表者による全体評価と見直しの結果

作成日 2024年6月21日

日本サーモニクス株式会社

1. 組織の概要

1) 事業所名及び代表者名

日本サーモニクス株式会社 石川 秀實

2) 所在地

本社工場 神奈川県相模原市中央区田名塩田1-13-6
研究開発棟(ラボ) 神奈川県相模原市中央区田名塩田1-11-18
テクニカルセンター 神奈川県相模原市中央区田名塩田1-13-19

3) 環境管理者氏名及び担当者連絡先

岳元 寛人 042-777-3411 takemoto@thermonics.co.jp

4) 事業の活動内容

高周波誘導加熱装置の設計・開発・製造・販売
その他省力機器の設計・開発・製造・販売

5) 事業の規模

活動規模	単位	2020年	2021年	2022年	2023年
売上高	百万円	798.1	802	1031	1023
出荷高	百万円	609.5	499.9	760	800
従業員	人	61	62	57	56
床面積(本社)	m ²	2022.41	2022.41	2022.41	2022.41
床面積(ラボ)	m ²	1513.7	1513.7	1513.7	1513.7
床面積(テクニカルセンター)	m ²	1483.85	1483.85	1483.85	1483.85

2. 対象範囲

1) 認証登録範囲

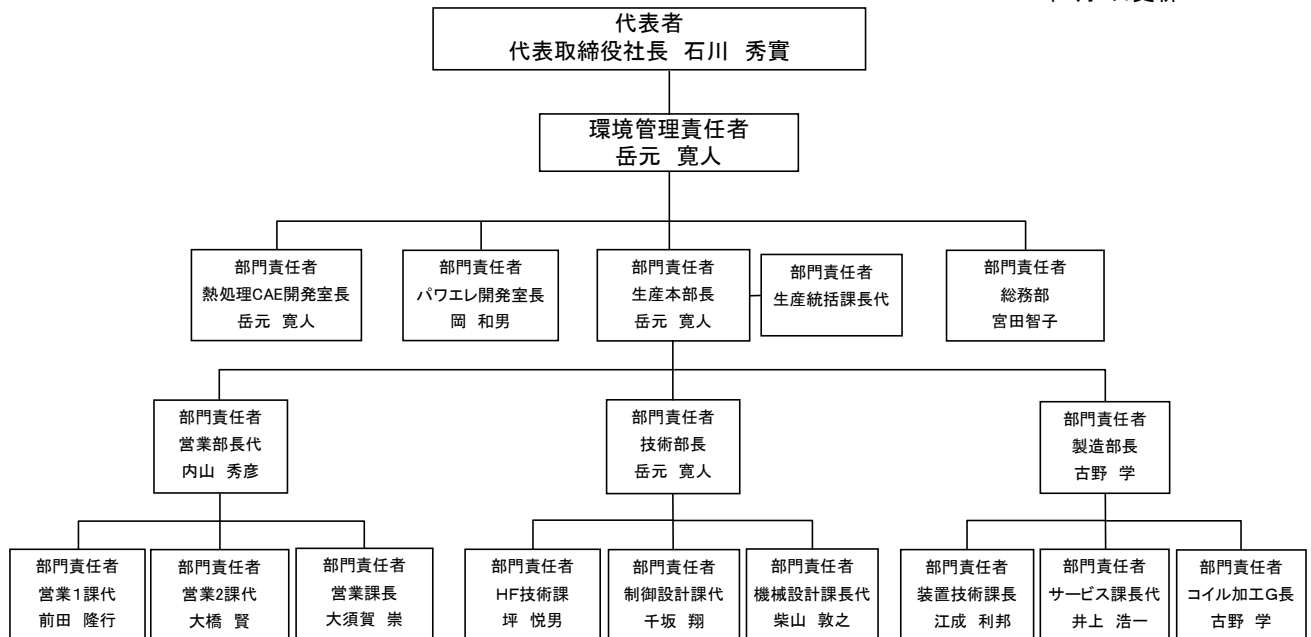
事業活動全体
日本サーモニクス本社工場、日本サーモニクスラボ及び日本サーモニクステクニカルセンター

2) レポートの活動期間、発行日

2023年4月～2024年3月
2024年6月21日 発行日
2025年6月頃 次回発行予定日

環境管理実施体制表

2024年4月1日更新



役職	責任および権限
代表取締役社長	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の制定 3. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定 6. 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 諮問機関である環境委員会の委員長として委員会の運営 4. 関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 5. 環境関連文書及び記録の作成・整理
部門責任者	1. 環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的改善 2. 環境上の緊急事態への準備及び対応 3. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施
従業員	1. 環境方針を理解し、部門の環境活動計画に従って活動する

(回覧ルート)

社長→部門責任者、環境管理責任者

(回覧ルート)

社長→部門責任者、環境管理責任者

3. 環境経営方針

[環境経営方針]

1)事業活動としての高周波誘導加熱装置製造業務に於いて、環境に与える影響を的確に把握し、技術、経済的に可能な範囲で環境経営目的・目標を定め、管理プログラムを設定しこれを実行すると共に定期的に見直しを行い、環境汚染防止及び環境経営保全活動の継続的改善・向上を図ります。

2)環境保全に関する法規制を順守し、その他の要求事項を遵守し、一層の環境保全に取り組みます。

3)保全活動を推進するため、全ての組織及び従業員が活動できる環境管理組織を整備します。

4)高効率な高周波誘導加熱装置を開発し世に出すことにより社会全体の省エネルギー化を推進していきます。

5)事業活動の中で、特に以下の項目について優先的に保全活動を推進します。

①環境保全活動

生産活動における電力をはじめとする諸エネルギーの無駄を省き高効率化を進めます。営業・生産活動における車両の保守点検作業の励行と安全運転(エコ運転)の遵守に努め、ガソリン使用量の削減に努めます。環境負荷低減車両に更新してゆきます。

②工場・オフィスにおける環境負荷の低減

工場・オフィスで使用する電気使用量の削減、廃棄物の削減、水使用量の削減に努めます。省エネ機器を推進します。

③廃棄物の削減

分別により資源の有効利用と廃材の再資源化を図り、廃棄物を削減します。

④節水活動

水の使用を出来る限り抑え、排水量を削減します。

⑤調達資材のグリーン購入を積極的に行います。

⑥自らが製造する高周波誘導加熱装置の省エネルギー化を推進し環境配慮に努めます。高効率タイプの部品の使用を増やしてゆくよう努めます。

6)環境教育を実施し全社員が環境経営方針の遂行に当たり環境に関する意識向上を図ると共に、取引先へも環境基本方針を周知し、理解と協力を要請します。

作成2011年12月1日

更新2015年3月30日

更新2018年3月30日

日本サーモニクス株式会社

代表取締役社長 石川 秀實

4. 環境経営目標

環境への負荷の現状と取組状況のチェック結果を検討し、非常に効果が期待できるものとして、総エネルギー投入量、水資源投入量、廃棄物処分量、などの削減に取り組むこととした。

一方、昨今の社会的要請により、環境保全の取組として、事業活動へのインプットに関する項目、事業活動からのアウトプットに関する項目、環境経営システムに関わる項目に積極的に取り組むこととした。

テクニカルセンターは2020年6月から開設。電気使用量基準値を2020年10月～2021年3月の2倍とする。

環境負荷と環境への取組結果を踏まえ定めた環境負荷低減のための目標は次の通りである。

作成日2022年6月30日

環境経営目標

承認	作成者
石川秀實	岳元 寛人

目 的		基準年 2020年	2022年	2023年	2024年
		2020年度4月～2021年3月	2022年4月～2023年3月	2023年4月～2024年3月	2024年4月～2025年3月
二 排 酸 出 化 量 炭 素	全体の二酸化炭素排出量	191.2kg-CO2/百万円 116,573.3kg-CO2	基準年出荷高比1%削減 189.2kg-CO2/百万円 115407.3 kg-CO2	基準年出荷高比2%削減 186.1kg-CO2/百万円 114,241.5kg-CO2	基準年出荷高比3%削減 184.2kg-CO2/百万円 113,075.9kg-CO2
	電気使用量の削減 本社	80802 k Wh 36845.7kg-CO2	79993.9 k Wh 36477.2kg-CO2	79185.9 k Wh 36108.7kg-CO2	78377.9 k Wh 35740.3kg-CO2
	テクニカルセンター	2020年10月～2021年3月 56,122(28061×2) kWh 25591.6kg-CO2	2020年基準1%削減 55560.7kWh 25335.6kg-CO2	2020年基準2%削減 54999.5kWh 25079.7kg-CO2	2020年基準3%削減 54438.3kWh 24823.8kg-CO2
	ラボ	48809 k Wh 22256.9kg-CO2	48320.9 k Wh 22034.3kg-CO2	47832.8 k Wh 21811.7 kg-CO2	47344.7 k Wh 21589.1kg-CO2
	総合	185,733 k Wh 304.7kWh/百万円 84694.2kg-CO2 138.9kg-CO2/百万円	基準年出荷高比1%削減 183,875.5kWh 301.6kWh/百万円 83847.2kg-CO2 137.5kg-CO2/百万円	基準年出荷高比2%削減 182018.2kWh 298.6kWh/百万円 83000.3kg-CO2 136.1kg-CO2/百万円	基準年出荷高比3%削減 180161.0kWh 295.5kWh/百万円 82153.3kg-CO2 134.7kg-CO2/百万円
	ガソリン使用量の削減	13741ℓ 22.5ℓ/百万円 31879.1 kg-CO2 52.3kg-CO2/百万円	基準年出荷高比1%削減 13603.5ℓ 22.2ℓ/百万円 31560.1kg-CO2 51.7kg-CO2/百万円	基準年出荷高比2%削減 13466.1ℓ 22.0ℓ/百万円 31241.3 kg-CO2 51.2kg-CO2/百万円	基準年出荷高比3%削減 13328.7ℓ 21.8ℓ/百万円 30922.5 kg-CO2 50.7kg-CO2/百万円
	(生産・営業)				
廃 棄 物	産廃	2190kg 3.6kg/百万円	基準年出荷高比1%削減 2168.1kg 3.55kg/百万円	基準年出荷高比2%削減 2146.2kg 3.52kg/百万円	基準年出荷高比3%削減 2124.3kg 3.48kg/百万円
	焼き割れ防止剤	5360ℓ 8.7ℓ/百万円	基準年出荷高比1%削減 5306.4ℓ 8.7ℓ/百万円	基準年出荷高比2%削減 5252.8ℓ 8.6ℓ/百万円	基準年出荷高比3%削減 5199.2ℓ 8.5ℓ/百万円
	一般廃棄物	249kg 0.4085kg/百万円	基準年出荷高費1%削減 246.5kg 0.4044kg/百万円	基準年出荷高費2%削減 244.0kg 0.4003kg/百万円	基準年8%削減 241.5kg 0.3962kg/百万円
上下水の使用量の削減 (m³)		488 0.8/百万円	基準年出荷高比1%削減 483.1 0.792/百万円	基準年出荷高比2%削減 478.2 0.784/百万円	基準年出荷高比3%削減 473.3 0.776/百万円
グリーン購入 件／年間		194件	購入の推進	購入の推進	購入の推進
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目		18件	省エネ機構回路20件装置取り込む	省エネ機構回路21件装置取り込む	省エネ機構回路22件装置取り込む

CO2排出量係数は環境省令和5年5月26日資料より(東京電力エナジーパートナー令和3年度CO2調整後排出係数0.456kg-CO2/kWh)

基準年を見直した。前回までは2010年を基準年としていたが、10年以上経つ為2020年を基準年とする。
2020年出荷額：609.5百万円
ガソリン排出係数：2.32

5、環境経営活動計画とその評価

2023年度環境経営活動計画書とその評価

作成:2024年6月 21日

承認	作成
石川	岳元

評価 ○:達成 ×:未達 □:計画 ■:実績

2020年度基準				2023年度														原単位
NO	中 期 目 標	年 度 目 標	施 策	責任者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	二酸化炭素削減 (電力の削減) 2020年度基準 2040年基準年出荷高比 20%削減 304.7KWH/百万円 ↓ 243.76kWH/百万円	基準年出荷高比2%削減 304.7KWH/百万円 ↓ 298.6KWH/百万円	こまめに電気を消す 計画電力量(KWH) 同累計(KWH) 182,018.2kWh 実績電力量(KWH) 同累計(KWH) 200,579kWh 年度末に実績を出荷高でわる。 250.7kwh/百万円	岳元														○
2	二酸化炭素削減 (ガソリン使用量の削減) 2020年度基準 2040年出荷高比20%削減 22.5㍔/百万円 ↓ 18㍔/百万円	基準年出荷高比2%削減 13,741㍔→13,466.1㍔ 22.5㍔/百万円 ↓ 22.0/百万円	燃費向上運転の励行 燃料使用計画量(L) 同累計(L) 13466.1㍔ 燃料使用量実績(L) 同累計(L) 16441.26㍔ 年度末に実績を出荷高でわる。 20.55㍔/百万円	内山														○
3	事業系一般廃棄物の削減 紙類(雑誌、カタログ、) 2020年基準2040年10%削減 249kg→224.1kg 0.4085kg/百万円→ 0.3676Kg/百万円	事業系一般廃棄物の削減 基準年出荷高比2%削減 244.0kg ↓ 0.4003kg/百万円	一般廃棄物に含まれるコピー用紙を さらに細かく分別しリサイクルにまわす 計画一般廃棄物計画量 244.0kg 実績 127.9kg ※コピー用紙リサイクル 466kg 0.159875kg/百万円	岳元 宮田														○
4	産業廃棄物排出量削減 適正管理の推進 2020年基準 2040年出荷高比20%削減 3.6kg/百万円 ↓ 2.88kg/百万円 産業廃棄物排出量削減 適正管理の推進 焼酎防止油(水溶性) 2020年基準 2040年出荷高比10%削減 5360㍔ ↓ 4824㍔ 7.91kg/百万円	基準年出荷高比2%削減 3.6kg/百万円 ↓ 3.52kg/百万円 基準年出荷高比2%削減 5360㍔ ↓ 5252.8㍔ 8.6㍔/百万円	・古紙分別(段ボール再資源化) 423.8kg 産業廃棄物計画排出量(kg) 2146.2kg 産業廃棄物実績排出量(kg) 2348kg 年度末に実績を出荷高でわる。 2.935kg/百万円 395.200 円 焼酎防止油(水溶性)削減 最低の使用量を作成し国内の場合は 顧客に持ち組む、可能な限り再利用する 計画 5252.8㍔ 実績 5450㍔ 年度末に実績を出荷高でわる。 6.81㍔/百万円 194.500円	岳元 評価 江成 評価 古野														○
5	排水量削減 2020年基準 2040年出荷高比20%削減 0.8m/百万円 ↓ 0.64 m/百万円	基準年出荷高比2%削減 0.8m/百万円 ↓ 0.784 m/百万円	・節水に対する呼びかけ ・調整時循環水槽の利用促進 排水計画量(m3) 478.2m 排水実績量(m3) 401m 年度末に実績を出荷高でわる。 0.50m3/百万円 上下合算 114,567円	古野														○
7	グリーン調達推進	22年4月～22年3月 グリーンマークの物品 購入の推進	事務用品などの購入品のグリーン調達 対応品の購入の推進 件数 86品	宮田														○
8	自らが生産・販売・提供する 製品及びサービスに関する 項目	省エネ機構回路を装置 21件以上取り込む	インバーターなどを利用し減力運転回路 や画面のライトを消すなどの省エネ回路 を装置に取り込む 合計 19件 全35件中	岳元														×
9	環境教育	新入社員教育完了	新入社員教育	岳元														○
10	化学物質の適正管理	化学物質の適正管理	SDSでの適正管理 化学物質使用量把握	坪 岳元														○ ○
NO.	評価・確認 月日	評価・確認者	評価・確認名称(定期、臨時)	評 価 ・ 確 認 結 果、コメン ト、是 正 処 置 等														
	2023年6月	岳元	定期	結果・実績 電気使用量 燃料使用量 上下水量 産業廃棄物 廃液 出荷額800百万円	200,579kwh/800百万円 16441.26㍔/800百万円 401m/800百万円 2348kg/800百万円 5450㍔/800百万円 250.7kwh/百万円 20.55㍔/百万円 0.50m/百万円 2.935kg/百万円 6.81㍔/百万円													

CO2排出量係数は環境省令和5年5月26日資料より(東京電力エナジーパートナー令和3年度CO2調整後排出係数0.456kg-CO2/kWh)

6、環境経営目標の実績

今年度の環境保全活動が終了し、社長と環境管理担当者が環境への取組結果の評価を行った。
評価結果は次の通りである。

2023年4月～2024年3月売上高1023百万円
2023年4月～2024年3月装置出荷高800百万円

No.	推 進 項 目	単 位	2023 年 度 目 標	2023 年 4 月 ～ 2024 年 3 月 実 績	評 価
1	二酸化炭素排出量削減 （出荷高当り）	総量		129,607kg-CO2	○
		kg-CO2／百万円	186.10	162.00	
	電気使用量	総量		200,579kwh	○
		kWh／百万円	298.60	250.70	
	ガソリン使用量削減	総量		16441.26ℓ	○
		ℓ／百万円	22.00	20.55	
2	産業廃棄物削減 （出荷高当り）	総量		2348kg	○
		kg／百万円	3.52	2.935	
	焼割防止油 （出荷高当り）	総量		5450ℓ	○
		ℓ／百万円	8.6	6.81	
	一般廃棄物削減 （出荷高当り）	総量		127.9kg	○
		kg／百万円	0.4003	0.1598	
3	水使用量削減 （出荷高当り）	総量		401m ³	○
		m ³ ／百万円	0.784	0.5	
4	グリーン購入の推進 （購入の推進）	件数	推進	84件	○
5	自らが生産する製品サービス （省エネ機能・部品利用）	件数	21件	19	×

CO2排出量係数は環境省令和5年5月26日資料より(東京電力エナジーパートナー令和3年度CO2調整後排出係数0.456kg-CO2/kWh)
・サイトごとの電気使用量実績(実績/目標(kWh)):
 本社(98,794kwh/79,185.9kwh)、テクニカルセンター(48,274kwh/54,99.5kwh)、ラボ(53,511kwh/47,832.8kwh)
・項目5の省エネ製品以外は、原単位にて目標値を達成でした。
・焼割防止油の量は、焼入れ設備が少なかったため廃液量が減少した。
・CO2総排出量: 129,607.7kg-CO2

7. 活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

活動計画の取組結果とその評価

- 1、二酸化炭素排出量削減(電力)
 昨年度に続き節電の取り組みとして休憩時間の消灯、工場循環水ポンプの停止、設備の電源停止、
 製作装置が同時運転にならない様に工程の調整、声の掛け合い等を行い電力削減に向けて取り組んだ。
 引き続きすべてのサイトで電気デマンドをモニターし、電気使用量が一定値を超えないように注意して業務に従事した。
- 2、二酸化炭素排出量削減(自動車排ガスの低減)
 前年と同様にガソリン使用量の削減は営業・生産の個々のガソリン使用量(燃費)の計測記録をし
 運転方法に気を遣うようにした。
 営業には、移動手段として電車の活用をして頂き、ガソリン使用量の削減をした。
- 3、廃棄物排出量削減
 会社緑地の除草廃棄物をすぐに処理せず天日乾燥させ軽量化して廃棄するようにし減量化に努めた。
 雑草が生えそうな箇所に防草シートを張り、除草廃棄物の量を減らすようにした。
- 4、排水量削減
 節水を呼びかけ、出っぱなしにならないよう注意して業務に従事した。
- 5、グリーン調達
 グリーン調達にあっては事務用品などはグリーン調達品であり、購入するため製品の把握をし購入に努めた。
- 6、自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目
 昨年と同様に製作している装置にインバーターなどを取付減力運転できるようにした。
 またバックライトの消灯や表示灯のLED化を増やし省エネ装置になるように設計・製作した。
- 7、環境教育
 新入社員の教育、緊急時訓練を行った。

エコアクション活動と5Sを関連付て活動しているため若い社員が中心となり5S及びエコアクションの活動に力がより一層入るようになった。一部まだ完全に分別されていないものがあるので引き続き廃棄物の分別をよりいっそう進めるよう社員の意識向上を務めていきたい

次年度の取組

2025年度は基準年基準値より3%の削減を目標とする。(基準より1%/年の削減目標は変更しない)

CO2排出量係数は環境省令和5年5月26日資料より(東京電力エナジーパートナー令和3年度CO2調整後排出係数0.456kg-CO2/kWh)とする
次年度はコストを上げずに、さらに削減する方法を社員一丸となって考えて実行して行きたい。

次年度の取組内容は下記のとおりである。

- 1、二酸化炭素排出量削減(電力)
こまめに電気を消すよう5S員と協力し社員に意識づける。
また空調の省エネモードを活用しより一層削減量を増やして行きたい。
- 2、二酸化炭素排出量削減(自動車排ガスの低減)
公共交通機関を使用し自動車の使用量を削減したい。
社用車をハイブリッド化して低燃費車に変更してゆく。
運転管理者と協力しエコ運転を推進する。
- 3、廃棄物排出量削減
産業廃棄物と一般廃棄物との分別をさらに進め、コピー、新聞紙、雑誌などをリサイクルして廃棄物を減らしていきたい。
引き続き部品に付属する紙の取説等をリサイクルできるように細かく分類し廃棄物を削減したい。
プラスチックなどの廃棄物をRPF化しリサイクルできるよう検討する。
- 4、排水量削減
装置冷却水を外部に排出しないように循環水槽の数を増やし節水に努めたい。
手洗い場の蛇口を自動水栓に交換し使用量を減らしたい。
- 5、グリーン調達
購入している事務用品の多くの物がグリーンマーク付の商品の為、グリーン製品以外の物品を洗い出し、
グリーン製品に置き換えていきたい。事務用品以外でも同様グリーンマーク商品を調達して行きたい。
- 6、自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目
装置にポンプタイマー、インバーター付加、等コストに見合った省エネ回路・機能を装置に取り込んで行きたい。
- 7、環境教育
新入社員の教育はもとより、省エネの意識を全社員で高めて行くよう、各課による朝礼、部課会議、責任者会議等を利用し広めて行きたい。
社員にエネルギー及び廃棄物に対する費用を公開し、生産に対するコスト意識を持たせ省エネ及びコスト削減を推進する

次年度の環境経営目標

環境への負荷の現状と取組状況のチェック結果を検討し、非常に効果が期待できるものとして、総エネルギー投入量、水資源投入量、廃棄物処分量、などの削減に取り組むこととした。

一方、昨今の社会的要請により、環境保全の取組として、事業活動へのインプットに関する項目、事業活動からのアウトプットに関する項目、環境経営システムに関わる項目に積極的に取り組むこととした。

期初の目標から変更がない

環境負荷と環境への取組結果を踏まえ定めた環境負荷低減のための目標は次の通りである。

作成日2024年6月21日

環境経営目標

承認	作成者
石川秀實	岳元 寛人

目 的		基準年 2020年		
		2020年度4月～2021年3月	2023年	2024年
			2023年4月～2024年3月	2024年4月～2025年3月
二 排 酸 出 化 量 炭 素	全体の二酸化炭素排出量	191.2kg-CO2/百万円 116,573.3kg-CO 2	基準年出荷高比2%削減 186.1kg-CO2/百万円 114,241.5kg-CO 2	基準年出荷高比3%削減 184.2kg-CO2/百万円 113,075.9kg-CO 2
	電気使用量の削減 本社	80802 k Wh 36845.7kg-CO 2	79185.9 k Wh 36108.7kg-CO2	78377.9 k Wh 35740.3kg-CO2
	テクニカルセンター	2020年10月～2021年3月 56,122(28061×2) kWh	2020年基準2%削減 54999.5kWh	2020年基準3%削減 54438.3kWh
		25591.6kg-CO 2	25079.7kg-CO 2	24823.8kg-CO 2
	ラボ	48809 k Wh 22256.9kg-CO 2	47832.8 k Wh 21811.7 kg-CO 2	47344.7 k Wh 21589.1kg-CO 2
		185,733 k Wh 304.7kWh/百万円 84694.2kg-CO 2 138.9kg-CO 2/百万円	基準年出荷高比2%削減 182018.2kWh 298.6kWh/百万円 83000.3kg-CO 2 136.1kg-CO 2/百万円	基準年出荷高比3%削減 180161.0kWh 295.5kWh/百万円 82153.3kg-CO 2 134.7kg-CO 2/百万円
	ガソリン使用量の削減	13741ℓ 22.5ℓ/百万円 31879.1 kg-CO2 52.3kg-CO 2/百万円	基準年出荷高比2%削減 13466.1ℓ 22.0ℓ/百万円 31241.3 kg-CO2 51.2kg-CO 2/百万円	基準年出荷高比3%削減 13328.7ℓ 21.8ℓ/百万円 30922.5 kg-CO2 50.7kg-CO 2/百万円
廃 棄 物	産廃	2190kg 3.6kg/百万円	基準年出荷高比2%削減 2146.2kg 3.52kg/百万円	基準年出荷高比3%削減 2124.3kg 3.48kg/百万円
	焼き割れ防止剤	5360ℓ 8.7ℓ/百万円	基準年出荷高比2%削減 5252.8ℓ 8.6ℓ/百万円	基準年出荷高比3%削減 5199.2ℓ 8.5ℓ/百万円
	一般廃棄物	249kg 0.4085kg/百万円	基準年出荷高費2%削減 244.0kg 0.4003kg/百万円	基準年8%削減 241.5kg 0.3962kg/百万円
上下水の使用量の削減 (m³)		488 0.8/百万円	基準年出荷高比2%削減 478.2 0.784/百万円	基準年出荷高比3%削減 473.3 0.776/百万円
グリーン購入		194件	購入の推進	購入の推進
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目		18件	省エネ機構回路21件装置取り込む	省エネ機構回路22件装置取り込む

CO2排出量係数は環境省令和5年5月26日資料より(東京電力エナジーパートナー令和3年度CO2調整後排出係数0.456kg-CO2/kWh)

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無

法規制などの名称	該当する設備等	遵守状況
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物 産業廃棄物	○
フロン排出抑制法	業務用エアコン等	○
毒物及び劇薬物取扱 欧	劇物保管	○

内 容	過去3年から現在までの結果
遵守状況の確認及 び評価結果 法律違反の有無	上記のように環境関連法規等の取りまとめ一覧を もとに遵守状況をチェックした結果、取り決められた ことが確実に守られていました。また、違反もありま せん。
訴訟の有無	なし

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価項目8の年度目標を件数で評価しているが、当社は受注生産なので、件数で評価することは変動を評価する事となり適切でない。例として、タッチパネルやインバーターを組み込んだ設備に対する省エネソフト組込み件数割合で評価する等の改善が必要である。
--

以上